



2012 - 2013 部長 主題 「 前へ 声を掛合い 」

“ GO FORWARD. CALL TOGETHER ”

部長通信 (最終号)

荒川 文門 (名古屋南山クラブ)

6月22日、23日の西日本区大会も無事終わり中部の皆様もほっと一息、というところでしょう。

部長としてこの一年力足らずの私を支えて頂きました中部の皆様本当にありがとうございました。昨年長浜で長谷川前部長(名古屋東海クラブ)よりバッジを頂きましてから「もう」というか「やっと」というか一年が過ぎてしまいました。そしてこの部長通信も最終号です。

部長主題として「前へ 声を掛合い」という言葉の意味は、部長をお引きうえしました折に皆さまにお伝えしましたが、とにかく前進、共に声を掛合い震災復興のために少しでも働きたい、という希望は満足できるものではありませんが少しはこの一年努力出来たものと思っています。部長として積極的な公式訪問、他の部の部会参加、出来る限りの外への参加、など個人的に前に進むことのできた一年でした。部全体として、あるいは、各クラブとしてどれくらい「前へ」進めたかは分かりませんが、個人としては、何とか出来る範囲内で出来たような気がします。参加させていただいた各部、各クラブの皆様の活動に感銘を受け、ワイズメンとしてまだまだしなければならない多くの事があるのに気付かされました。各クラブの持つ独自の奉仕のプログラムはそれぞれ素晴らしいものですが、もう少し各クラブが声を掛合いお互いに協力し合えばもっとアピールできる素晴らしいプログラムになるでしょう。各クラブの連携のつなぎ役としての部長訪問のためにもっと力を入れればよかったと悔が残ります。平口新部長に期待したいと思います。

震災復興のプログラムとして、各YMCAと協力し各地で行われた街頭募金等がありました。また被災地の現状、遅々として進まない復興活動の中にも明るさのある報告、あまりマスク





ミには取り上げられない自主避難の方々の悩み、など日頃の生活の中でつい忘れてしまいそうになる問題を改めて浮き彫りにしてくれたYYフォーラムでの問題提起もありました。東北支援の訪問、物品販売など積極的に取り組まれたクラブもありました。また、5月の陸前高田の戸羽市長を招いての講演会で何が本当の支援であるかも考えさせられました。またメネット事業では「心のケア」に取り組み、精神的な支えも勉強しました。これらは全てワイズメンである皆様方の働きかけです。この成果を次年度にはさらに発展させ、終りの見えない復興支援に地道に取り組みたいものです。



交流事業としては、STEPの派遣、IBC、DBC活動が目立った年でもありました。STEP事業でのアフリカ研修は色々な意味で世界に目を向けさせてくれました。この経験を通し次年度もさらに発展させたいものです。IBCでは、名古屋クラブ、グランパスクラブの韓国のIBC交流、南山クラブの台北のクラブとの交流、DBCでは、金沢クラブ、グランパスクラブが締結をし、名古屋クラブ、東海クラブが活発にDBC交流を進めました。



こんなに多くのプログラムを一年間の間に実行したのか、と思えばますますワイズ活動の偉大さに改めて感心します。すべて各クラブのメンバーが協力し合って実行したのです。他の団体ではこんなことはあり得ないのではないか、と思うほどです。何か偉大なものに導かれて進めて来ました。すべてそれは主イエスの導きのたまものと信じます。部報3号にて諸事業の報告をさせていただきます。



この一年の幕を閉じるにあたり、改めて思いだされます事は、偉大な指導者であり、親しき友であった成瀬理事の事です。今一緒に「終わったー」と共に叫べたらどんなに幸せなことでしょう。二年前、役を引き受けるに当たり成瀬理事より「何とか頼むわ」の一言が無ければ、部長当番の順まで狂わせお引き受けすることはありませんでした。あの一言が無ければ、この一年の活動もなく、それまでと同じのワイズ活動をしていたでしょう。成瀬理事は、そんな私を現場に引きずりだしてくれた偉大な指導者でした。感謝の念と悲しみの気持ちを改めて感じています。この一年ご協力くださった皆様、ご指導くださった皆様、そして成瀬理事本当にありがとうございました。